



古くからキリスト教が信仰されてきたエチオピアでは、雨期が終わる9月下旬になると、イエス・キリストの受難を記念する「マスカル祭」が行われる。マスカルはアムハラ語で「十字架」を意味し、キリストが磔はりつけにされた十字架がゴルゴダの丘から発見されたことを祝う行事として各地で盛大に開催される。

中でもエチオピア北部、標高約2500メートルの高地にあるラリベラでは一年で最も重要な儀式となっている。ラリベラは巨大な岩盤を彫り抜いて造られた教会群があることで有名だが、エチオピア正教会のキリスト教徒にとっては聖地でもある。毎年マスカル祭の開催に合わせて、白装束をまとった巡礼者が遠方から続々と町に集結する。

祭りの当日、町の中心にある広場では、キリストの十字架を表す丸太のトーチが組まれ、信徒がそれを囲んで敬拝する。そしてトーチに火が放たれると、あちこちで太鼓のリズムに合わせて踊りが始まり、祭りは最高潮を迎える。中には、木の枝を火の中に放り込んだり、まだ燃えさかるトーチの中に手を伸ばして灰を拾い、熱心に厄除け祈願する人たちもいる。

ラリベラに来る巡礼者の多くはやせた農民たち。テフ※やトモロコシの収穫の前に「もう少し雨が降ってほしい」。そう切に願っていた。

春

夏

秋

冬

24

9月 マスカル祭

# 燃える十字架に 祈りを込める



エチオピア  
ETHIOPIA

※主にエチオピアで栽培・食される穀物。

文・写真=渋谷敦志

フォトジャーナリスト。高校生のときにベトナム戦争の写真を見て写真の道を志す。ロンドン芸術大学(旧The London Institute)卒業。東京を拠点に、紛争や貧困の地で生きる子どもや難民を撮り続けている。アジアプレス所属。